

C-5 長崎における女子学生の季節と着衣状態との関係 (第3報)

長崎県立女子短大 串山美津子

目的 さきに、1967年4月から1968年3月までの一年間の女子学生の着衣状態について検討したが、その後、冷暖房の普及、繊維製品の発達、流行等の諸条件によって、被服重量に変化があるか否かを知るため、8年経過した一年間の被服重量を測定した。今回は全衣服及び内外衣、上下衣に大別した重量と、その月別変動、気温との関係について検討し、前回との比較を試みた。

方法 長崎市在住の女子学生96名、年齢19才から20才について、各月の15日を中心に前後3日間のうちの日を選び、当日着用している被服の種類、型態、材質、重量および温度感覚状況を記入させた。期間は1974年7月から1975年6月までの一年間である。

結果 各月の一人あたり平均被服重量は月によって変動するが、夏季が少く、冬季が多い。季節による重量変動は、気候変化の著しい春季、秋季の変動中が大きく、夏季、冬季は少い。内衣と外衣では、外衣の被服重量が大で季節による変動も大きい。上衣と下衣では上衣の方が季節変動が大きく、何れも前回と似た傾向を示した。ただし、内外衣について、前回に比べ今回は、内衣重量が各月とも減少し、外衣重量が増加している。気温と被服重量との間には相関が認められ、同じ気温に対し、着衣重量は向寒期に大(厚着)、向暖期に小(薄着)の傾向が見られた。